4　災害安全における実践事例

災害安全①　地域とともに「いのち」と「こころ」をつなぐ学びについて考える事例

中学校　第2学年（総合的な学習の時間）

単元（題材）について

1　単元名

水害時の避難経路の情報を共有し、安全な避難行動をとろう

2　「必ず指導する基本的事項」との関連

区分	Ⅲ－４　気象災害時の安全
目標	風水害、雪害の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。
内容	風水害時の危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。

3　教材化の視点（身に付けさせたい資質・能力）

本校は、河川に隣接しており、台風等の影響により河川が氾濫し、学区域一帯が浸水する可能性がある。このような風水害が発生することを想定して、生徒自身の生命を守るとともに、家族や地域住民と協力して、子供から高齢者まで多くの人々の生命を守る行動につながるよう、防災に関する基本的な知識や実践力・行動力を身に付けさせたい。

そこで、地域の風水害の歴史を題材に、当時の被災状況を学ぶとともに、地域コーディネーターによる講話、避難行動訓練（実際に避難所まで行き、場所や経路の確認、危険箇所や水路等の確認、徒歩での所要時間の確認等）を実施することで、風水害時の適切な避難行動をとることができる力や風水害に備える力が育まれると考えた。

指導計画（10時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○地域と風水害の歴史について学ぶ。	◎地域コーディネーターの講話を中心に、江戸時代から現在にかけての、地域の歴史、風水害への対策等について、身近な例として理解する。
2～3	○学校や自宅からの避難行動計画を作成する。	◎東京マイタイムラインを作成し、自らの避難行動計画を作成する。 ◎地域における避難行動計画についても考え、自助のみならず、共助についても考える。
4～5	○地域の地図やハザードマップ等を活用して、風水害発生時の避難について考える。	◎自治体の防災主管課職員からの講話を基に、ハザードマップを活用し避難経路について考える。
6～10	○避難行動訓練を通して、実際の避難時の問題点を発見し、ハザードマップを活用しつつ、実際にとる行動について考える。	◎各クラスの避難経路を実際に確認し、ルート上の点検と調査するポイントを確認する。 ◎避難行動訓練、冠水・水没等を想定した学校からの避難経路に加え、自宅からの避難経路や、自宅からの避難経路について考える。

指導の工夫

大雨が降った場合の防災気象情報による避難計画を身近な地域に置き換えることで、生徒の関心や疑問、生活経験などを基にした地域の課題を多面的に捉えるようにする。

そして、地域の課題を探究的な見方・考え方を働かせながら、実際の避難の際に注意すべき点等の情報を共有し、地域全体で緊急時に命を守る行動につながるような対応力を身に付けるための深い学びを実現させていくことができると考える。

指導事例（第 10 時／ 10 時間）

1　ねらい

水害時における避難行動訓練（クラスごとに七つの経路）を通して、その経路上の危険な場所・安全な場所・その他点検が必要な場所等について各班で話し合って地図にまとめ、各班の発表を通して、より安全な避難行動について考察する。

2　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　■評価
導入	○避難行動訓練を振り返る。 学校から指定避難所までの避難経路にある危険な場所・安全な場所・他に点検や確認が必要な場所を１枚の地図にまとめるとともに、情報を共有しよう。	
展開	○Ａ１サイズの地図に主要な地点の写真を貼り、危険な場所や安全な場所、その他点検が必要な場所、定点間の歩行時間等を書き込む。 ○発表に向けての準備を行う。 ○発表を行う。	◎情報や体験の共有を行いやすくするため、学習グループを設定し、自分の避難のみならず、家族や地域の人の立場を考えながら地図を作成することを伝える。 ■班で、避難経路上での危険な場所（低地・坂・用水路等）や安全な場所（垂直避難が可能な建物・高台になっている場所等）について話し合い、１枚の地図に書き込んでまとめ、共有する。 ◎避難経路や危険情報を中心に発表させる。 ◎班で意見交換しながら、避難経路上の危険な場所・安全な場所等を確認させる。
まとめ	○安全に避難するには、どのような点に注意すべきかをまとめる。	

生徒の学習状況

○避難行動訓練を振り返り、危険な場所、安全な場所、その他点検が必要な場所、定点間の歩行時間等、実地訓練を通して気付いたことや分かったことを班で共有し、班の考察として発表することができた。

○他の班の避難経路情報の発表を聞き、地域全体の避難経路情報を共有することができた。

生徒の変容

○実際に体験した、学校から指定避難所への避難行動訓練を振り返り、避難経路上の危険な場所や安全な場所等を確認することで、どのような危険があるかを想定し、より安全な避難方法を考えることができた。